学校だより　第２号

加曽利中

千葉市立加曽利中学校
令和５年５月 18 日

ここには「夕霧城」という美しい名の城があった

皆さんは、入学した時点で千葉市立加曽利中学校生徒会の会員になっているわけですが、生徒総会は生徒会の最高議決機関で、千葉市立加曽利中学校生徒会という集団の、昨年度一年間の活動を振り返るとともに、今年度の活動の方向を決める大事な会議です。

令和 5 年、西暦 2023 年の現在、この場所には千葉市立加曽利中学校という学校があり、千葉市立加曽利中学校生徒の集団 426 名が通っているわけですが、今から約 900 年前、平安時代末期には、この場所に何があったと思いますか。

加曽利中学校は校歌の歌詞に「丘の学びや」とあるように、小高い丘の上に立っています。正門下の道路から急な石段を上ると、貴船神社という古い神社があります。私は四月に着任して学校の敷地の内外を歩いてみて、ここは昔、お城でもあったんじゃないかなと思ったのですが、校長室にあった「ふるさと加曽利」という本を読んだところ、思ったとおり今から約 900 年前、平安時代末期には、この場所には「夕霧城」別名「夕鶴城」という美しい名前のお城があったのだそうです。（この本を読んでみたい人は、校長室に来てください。4 冊ありますので貸し出します。）

貴船神社は夕霧城の守護神だったようです。「夕霧城」の主（あるじ）は「加曽利冠者小太郎（かそりかんじゃこたろう）」という武将でした。冠者というのは、元服して成人し、冠をつけた若者という意味で、中世の武家の冠は烏帽子（えぼし）でした。当時の元服は 12 歳から 16 歳の間に行われたそうですから、ちょうど皆さんと同じ年くらいの若者が、ここにあった夕霧城の当主だったわけで、その主に仕える家臣の武将たちも、この地にたくさんいたことと思います。

「加曽利冠者小太郎」は、石橋山の戦いで平家に敗れ安房の国に逃げ延びてきた源頼朝が再び兵を挙げたときに、祖父の千葉常胤（つねたね）とともに頼朝の軍に加わり、平家とのほとんどの戦いに参加し、頼朝の天下統一に大いに貢献し、後に千葉氏第四代家督（かとく）、つまり第四代当主千葉成胤（なりたね）となりました。

今から 900 年前、鎌倉幕府成立のために大いに力を発揮し、千葉市の礎（いしずえ）を築いた「加曽利冠者小太郎」の城があったこの場所に、「加曽利冠者小太郎」とほぼ同じくらいの年齢の君たちが今、存在しているのです。

さて、話を戻します。新入生歓迎会で生徒会役員や専門委員会の委員長さんたちの説明を聞かせてもらいました。どの説明も、原稿の棒読みではなく、しっかりと自分の言葉で語っているのがわかりました。これは、自分の仕事や役割をしっかりと理解し、普段から着実に活動できているからだと思います。素晴らしいリーダーたちだなと思いました。

しかし、よい集団は、よいリーダーだけでは成り立ちません。リーダーを支える良きフォロワーがいて初めてリーダーが生き、素晴らしい集団になるのです。「生徒会は自分のために何をしてくれるのか」ではなく「自分は生徒会のために何をすることができるのか」を皆さん一人一人に考えてもらいたいと思います。

千葉市立加曽利中学校生徒会が、かつてここ夕霧城にいた「加曽利冠者小太郎」とその家臣たちのような素晴らしい集団になり、千葉市にその名を轟（とどろ）かせてくれることを期待しています。

（生徒総会　校長の話より再編集）

生徒総会(5/12)の様子

全校生徒が体育館アリーナに集合し、対面形式で生徒総会を行うことができました。提案する生徒、質問する生徒、答弁する生徒が、互いに同じ場所で顔を合わせて話し合えるのはやはり大切です。

桜木・加曽利地区商工会　朝市(4/29)　ボランティア

コロナ禍や天候不順でここ何年か中止となっていた朝市が久しぶりに行われ、本校生徒 26 名が売り子ボランティアとして参加してくれました。

元気でさわやかな中学生の売り子のおかげで朝市は大盛況。商工会の方からお褒めの言葉と卵のお土産をいただきました。